

# C—77 ヴォーグ誌にみられるドレスデザイン についての一考察

広島大教育 大池 久子  
神戸垂水東中 ○光成 妙子

1. 服飾界におけるモードの変遷のいちじるしい年代として指摘される '58~'67 のヴォーグ誌におけるドレスデザインについて、特に、外郭線の比例、分割線による面の変化、エンファシスによって生ずる効果など調和律の変動を調べ、形態上における被服美形成の基準を見出すことを目標とした。

2. 対象としたパネル数は、2,365 で、主として、正面向きのワンピースドレス着装のものを選んで、シルエットの傾向を調べると共に、比例コンパスを用い、ゴールデンセクションの技法により  $\phi$  指数、ならびに、 $\phi$  指数近似値を求め、理想的な調和律の分布を調べた。なお、この場合、色・テクスチャー・素材などドレスデザインの他の要素となるものは除外して考察した。

3. 角形シルエット・三角形シルエットについては、'63 年代の頃から漸次増大し、逆三角形ならびに鍾形シルエットは、'58~'62 年代に多く、以後次第に下降傾向を示している。

切り替線のないパネルにおいては、 $\phi$  指数は比較的少なく、 $\phi$  指数近似値が多い。しかし、切り替線のある場合は、 $\phi$  指数が優位を占めていることが認められた。これらの現象は、外郭線の変化とはほとんど関係なくよい調和律をつくっている。

また、エンファシスについては、その傾向ならびに位置による影響が大であることが知られた。